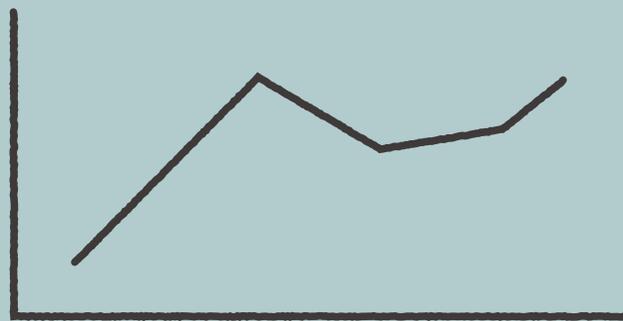
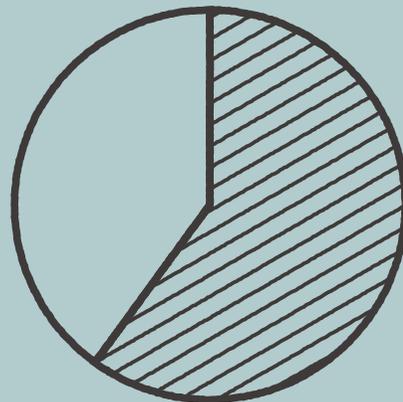


## 資料編について

### Data and References

A, B, C ...



資料編では、未来ビジョン策定までの協議会のあゆみを時系列で振り返ります。

青葉通駅前エリアのあり方検討協議会ではどのような議論が交わされたのか、市民からはどのような意見が寄せられたのか、未来ビジョンの策定に向けて実施した社会実験 MOVE MOVEによってどのような知見が得られたのかをまとめています。

協議会のあゆみを通して、未来ビジョンについての理解を、より深めていただけたら幸いです。

# 協議会のあゆみ（年表）

## History of the Council（Chronology）

未来ビジョン策定までの協議会のあゆみを、2021年から2022年と、2023年から2025年の2つの期間に分けて紹介します。

平成24年 2012年	青葉通まちづくり協議会が発足 ・青葉通周辺の商店会、町内会、企業などの地元関係者で構成される協議会
平成30年 2018年	青葉通まちづくり協議会から青葉通の一部広場化を含んだ「青葉通まちづくりビジョン」を仙台市長に提言
令和元年 2019年	新たなまちづくりの動き「せんだい都心再構築プロジェクト」の始動
令和2年 2020年	青葉通仙台駅前エリアで民間事業者による沿道開発の機運が高まる
	民間における青葉通仙台駅前エリアのまちづくりの機運が醸成され 仙台市における新たなまちづくりが始動
令和3年 2021年	青葉通駅前エリアのあり方検討協議会を設立 ・学識経験者、商工関係者、沿道地権者、交通事業者、交通管理者、仙台市で構成している協議会
	青葉通仙台駅前エリアの将来ビジョン作成に向けた検討・取組をスタート
	・エリアの現状や特性を整理 ・エリアづくりに向けた3つの視点を作成 ・社会実験に向けた議論がはじまる

令和4年 2022年	市民参画イベント「MACHITO SENDAI」を開催 ・社会実験の利活用内容や将来ビジョン作成に市民からの意見を反映させるために開催
	青葉通仙台駅前エリア社会実験「MOVE MOVE」を実施 ・道路空間の利活用の効果、交通への影響及び都心における回遊の創出検証のために実施
令和5年 2023年	社会実験の効果検証の深掘りを実施 ・年代や属性ごとに求められる機能、空間、要素について分析
	青葉通沿道のオフィスワーカーなどとの意見交換会をスタート ・青葉通に関わるひととの意見交換とつながりづくり
	社会実験の振り返りイベント「MOVE MOVEとは何だったのか？」を開催 ・社会実験の目的や検証結果を広く市民に伝え、市民の意見を収集
令和6年 2024年	社会実験のアーカイブ冊子「MOVEMOVE ARCHIVE BOOK」を作成 ・社会実験の企画、準備、実施の過程と効果検証の深掘り結果のアーカイブとして作成
	トークイベント「居心地の良いまちって何だろう？」を開催 ・社会実験の効果検証で得た「居心地の良さ」について市民と一緒に考え、市民の意見を収集
	将来ビジョン骨子案を作成 ・ビジョン、ビジョン実現に向けて共有したい価値観について協議会で共有
	未来ビジョン中間案（「将来ビジョン」から名称変更）を作成 ・ビジョン、ビジョン実現に向けて共有したい価値観、ビジョン実現に向けた方向性について協議会で共有
令和7年 2025年	未来ビジョン最終案を作成 ・ビジョン、このエリアで大切にしたい2つのことについて協議会で共有
	青葉通仙台駅前エリアの未来ビジョンを策定

協議会でエリアの現状や特性を整理したうえで、今後のエリアづくりに必要な3つの視点をまとめました。また、未来ビジョンの検討を進めるために社会実験を実施しました。

### エリアの現状や特性を整理

2021

#### 現状1 若い世代の減少が危惧される

現在の仙台駅周辺は、県内及び東北各県の若い世代が多く集まるエリアです。しかし、宮城県を除く東北各県の年少人口増減率は全国ワースト5（宮城県は18位）。  
 今後は来訪者の減少が危惧されます。

10年間の年少人口減少率（2012年-2021年）

順位	県名	年少人口減少率	年少人口減少数
1	東京都	6.4%	+95,673人
2	沖縄県	-1.4%	-3,546人
3	福岡県	-2.2%	-15,397人
⋮	⋮	⋮	⋮
18	宮城県	-10.4%	-31,658人
⋮	⋮	⋮	⋮
43	山形県	-17.8%	-26,216人
44	福島県	-18.1%	-47,297人
45	岩手県	-18.7%	-30,854人
46	青森県	-21.5%	-36,453人
47	秋田県	-22.5%	-27,283人

【出典】  
 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（総務省）より作成

#### 現状2 「仙台の顔」としての表情が見えない

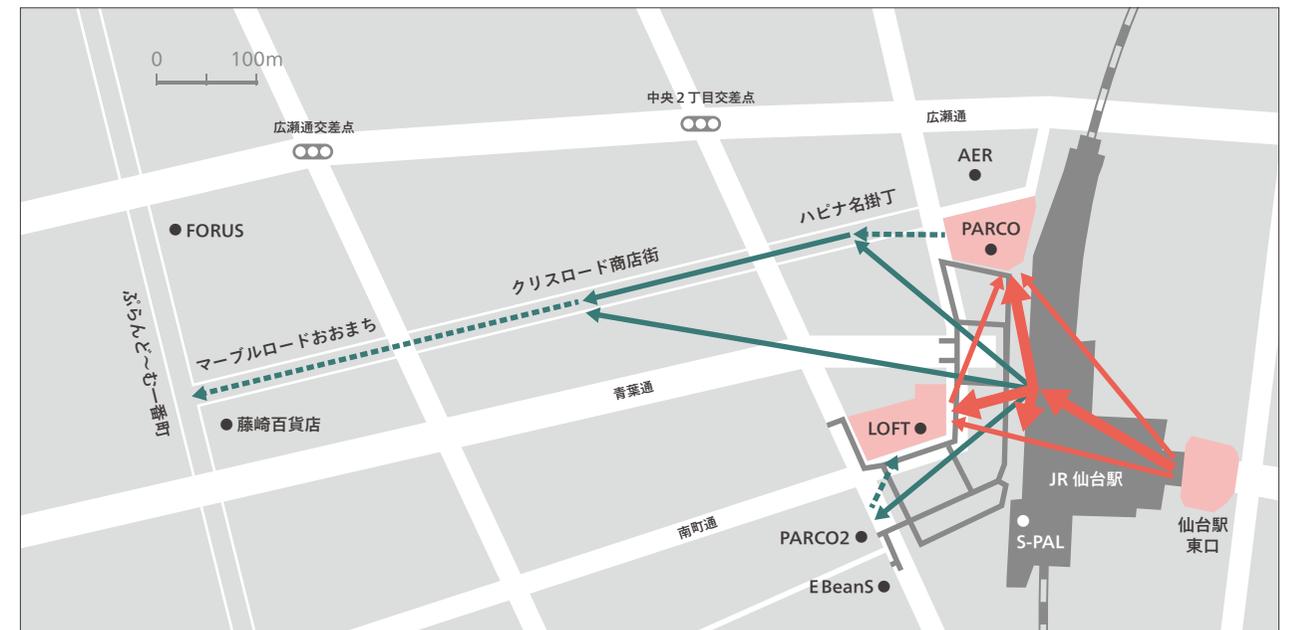
写真は、上と左下が平日の午後1時頃、右下が夜7時頃の様子です。どんな人がどのように利用しているのかが見えず、「表情が見えない」エリアといえます。



写真）青葉通仙台駅前エリアの平日の様子

#### 現状3 ペDESTロリアンデッキと東西自由通路に回遊が集中

下図によると、仙台駅東口・PARCO本館・仙台ロフトを結ぶ大きな三角形ができています。これが、現状の仙台駅前の人の流れで、東西自由通路とペDESTロリアンデッキでの回遊がメインとなっています。



分析期間：2019年10月  
 分析データ：「ジョルテ」ログデータ  
 分析方法：上記分析対象の移動行動に対して、各代表地点間での延べ移動人数を集計  
 分析対象人数：10,287人/1ヶ月

※移動人数が1日あたり13人（401人/1ヶ月）以上の経路のみを表示  
 ※仙台駅方面から仙台中心部への流動のみを表示  
 ※代表地点間を移動していても、仙台駅・仙台駅東口・仙台駅西口のいずれも訪れていない人は分析対象外

延べ移動人数（人/1ヶ月）

- 401-600
- 601-1,000
- 1,001-3,000
- 3,001-10,000

協議会委員からの意見を踏まえ、エリアづくりに向けた3つの視点をまとめました。  
 なお、視点1に基づくエリアづくりには視点2と視点3が不可欠であるため、  
 以下では視点1に、視点2と視点3が含まれるように示しています。

視点1 仙台の顔としてのエリア

視点から目指したいこと:

- ① このエリアや仙台の個性・強みをいかしながら、様々な人がこのエリアにいきたくなり、訪れる人に仙台の第一印象として好印象を与え、市民が誇れるエリアにすること。
- ② エントランスの役割として、他エリア（東北・仙台市内・都心各エリア）へ導くこと。

視点2 多様な活動があふれる人中心のエリア

視点から目指したいこと:

- ① 楽しさ、ワクワク感、居心地の良さ、暖かさ、安心感、魅力的・刺激的な経験といった、訪れる人の感情や活動を生み出し、様々な人が惹きつけられるエリアとすること。
- ② 人との交流や出会いによって、イノベーションが生まれるエリアとすること。

視点3 エリア価値向上のために挑戦するエリア

視点から目指したいこと:

新たな魅力を生み出すことや、社会の変化に応じて変えていくことなど、このエリアに関わる多様な主体がエリア価値向上のためにビジョンを共有し、挑戦すること。

エリアに求められる機能をそれぞれの視点ごとに洗い出しました。  
 エリアづくりでは、これらを踏まえた取組や機能の検討が必要と考えています。

視点1 仙台の顔としてのエリア

- 仙台の個性や強みをいかした機能・空間（ゆたかな緑、防災環境都市、学都、文化など）
- 「おもてなし」の機能・空間
- 仙台駅を出た人が認識しやすい機能・空間（特徴的な目印、サイン、アプローチなど）
- 仙台・東北を気軽に体感できる機能
- 他のエリア（東北、仙台市内、都心各エリア）に導く機能  
 （他のエリアを案内する機能、他エリアとの連携など）
- 風が強い日、寒い日をいかした機能・空間

視点2 多様な活動があふれる人中心のエリア

- 周辺のオフィスワーカー、親子、若者など、様々な人が楽しめる機能・空間
- 居心地の良さを感じる機能・空間
- 来訪者や周辺のオフィスワーカーなどが安心できる機能・空間
- アクセスしやすく、移動しやすくなる機能
- 音、色、匂いなど五感を刺激する機能・空間
- 人との交流や出会いを促す機能・空間

視点3 エリア価値向上のために挑戦するエリア

- フレキシブルに運用できる機能・空間（必要に応じて歩道空間を広げるなど）
- 将来ビジョンを踏まえつつ、社会のニーズや変化に柔軟に対応する機能・空間
- 隣接建物との相乗効果を発揮する機能・空間（隣接する建物との一体性や連携）
- 新たなコトを起こし、新たな価値を生み出し続けることを意識して機能・空間を考える
- 新たなテクノロジーの積極的な活用を意識して機能・空間を考える
- このエリアの持続可能な運営を意識して機能・空間を考える  
 （人材発掘・育成、収益事業と維持管理など）

### MACHITO SENDAIとは？

このエリアは、様々な人が行き交い多様なニーズがあるため、未来ビジョンの策定には、協議会委員だけではなく、市民の意見を聞きながら検討することが求められました。

さらに、今後のエリアづくりには、このエリアに関心を持って共に取り組む「ひと」を探すことも必要でした。そこで、このエリアを訪れることが多い若い世代を主な対象とし、様々な分野で活動する方々のトーク&ワークショップイベントを3回開催しました。

外から中が見える開放的な飲食店を会場とし、参加者が自由に出入りできるようにすると共に、登壇者が話をするだけではなく、参加者からも意見交換を行い、共にこのエリアの未来について考える機会としました。



### 第1回「MACHITO SENDAI vol.1」

開催：2022年3月27日

場所：CROSS B PLUS

登壇者：このエリアの取組に関心を持ち、様々な分野で活動する方々

参加者層：10-60代の幅広い世代が参加（うち10-30代が6割）

第1回は、このエリアに関心を持ち、共に取り組む「ひと」を見つけるため、仙台の様々な分野で活動する方々を迎えてトーク&ワークショップを実施しました。参加者には、まちづくりに従事する方の仕事やアイデア事例、暮らしをゆたかにするフラワーアレンジメントのワークショップなどを通して、このエリアと周辺エリア、ひいては仙台のまちに興味を持ってもらうことを目的としました。

### 参加者から寄せられたアイデア

青葉通で楽しみたいこと、やりたいことのアイデアを自由に出し合い、イラストにまとめました。そのなかで挙がったくつろげる空間の創出や焚き火は、社会実験 MOVE MOVE で実施しました。



第2回 「MACHITO SENDAI vol.2」

開催：2022年5月21日

場所：CROSS B PLUS

登壇者：このエリアの取組に関心を持ち、様々な分野で活動する方々

参加者層：10-60代の幅広い世代が参加（うち10-30代が6割）

第2回は、第1回に引き続き、このエリアに関心を持ち、共に取り組む「ひと」を見つけるため、仙台の様々な分野で活動する方々を迎えてトーク&ワークショップを実施しました。

参加者には、このエリアと周辺エリアで商業やイベントを行う方の話を聞いてもらったり、まちに対して感じていること、求めていることを自由に出してもらうことで、自分もまちに参画できるという気付きを得てもらうことを目的としました。

参加者から寄せられた声

「青葉通の印象」「10年後に望む青葉通の姿」などについて自由に意見を出し合い、参加者が言葉とイラストで表現しました。

第3回 「MACHITO SENDAI vol.3」

開催：2022年8月27日

場所：EDEN bar allegro

登壇者：このエリアの取組に関心を持ち、様々な分野で活動する方々

参加者層：10-60代の幅広い世代が参加（うち10-30代が6割）

第3回は、社会実験 MOVE MOVEに先駆け、実験コンテンツに関わる方々を迎えてトーク&ワークショップを実施しました。

天然アロマを使用した「仙台をイメージする香りづくり」のワークショップや、人が集う空間づくりや音響など、参加者に実際に五感を使って体験してもらうことで、社会実験やまちづくりへの関心を高めてもらうことを目的としました。

登壇者から寄せられた声

社会実験や今後のまちづくりに向けて、様々な考えが寄せられました。

Q.  
今の青葉通の印象は？

駅を降りてすぐに目に入る空間

通行目的の道

東二番丁通との交差点は  
地下道になっていて渡るのが面倒

嗅覚情報は直接脳に伝わり、感情を動かすことがあるので  
香りを通してまちのことを考える方法もある。

学生の視点を取り入れ、仙台のまちなかで、自己表現を通じて  
自分を好きになれる機会を提供し、自己実現の場をつくりたい。

Q.  
10年後に望む青葉通の姿は？

ファッションも、  
恋愛のあり方も、自由で。  
頭ごなしに否定したり、  
揶揄ったりしない雰囲気のエリア

どんな人が歩いたり  
活躍していたりしても  
「あ、そうなんや」で  
受け止められる寛容なエリア



人が集う空間づくりを通して、訪れる人の「心のゆたかさ」を向上させること  
ができれば、より街が活性化し、経済面にも好影響を与えるのではないかな。

まちなかで気軽に演奏や発表ができる場をつくることは、まちの魅力向上に  
つながるのではないかな。音楽を流すことで滞在時間が延びた事例もある。

焚き火を通して学生、社会人などたくさんの出会いがあると良い。  
会話がなくても、その場にいるだけでつながりを感じられることが必要ではないかな。

## 未来ビジョン策定に向けた社会実験を 18 日間実施

実施期間：2022年9月23日-10月10日

エリアづくりに向けた3つの視点（p50）を踏まえ、このエリアが回遊の起点となり、多様な活動が生まれる人中心の空間となること、「仙台の顔」としての表情を生み出し、新たなにぎわいを創出することを目的に実施しました。

期間中は一般車の通行を規制し、バス・タクシーのみ通行可能とする交通規制を実施。EDEN側の片側4車線のうち3車線を規制し、利活用空間と自転車通行空間を設けました。

実験では、道路空間の利活用の効果や、まちなかへの回遊の起点となるか、交通への影響を検証しました。

空間の利活用コンセプトは「青葉通仙台駅前エリアのひととなりを見出し、新しい流れを生む」。

通常「ひととなり」という言葉はまちに対しては使いませんが、まちは、ひとが活動し交流することで初めて活きた場所になるのではと考え、意図してこの言葉を使いました。

また、現状の表情が見えないエリアに様々なひとが集い交流することで、新しい流れを生み出すことを目指しました。

視点1 仙台の顔としてのエリア  
視点2 多様な活動があふれる人中心のエリア  
視点3 エリア価値向上のために挑戦するエリア

3つの視点を踏まえて「未来ビジョン」をつくるために公共空間での社会実験を実施

## 検証したいこと

1. 道路空間の利活用の効果
2. まちなかへの回遊の起点となるか
3. 交通への影響

3つの視点を踏まえた  
コンセプト・ターゲットを設定

空間デザイン、ビジュアルデザイン  
コンテンツ、効果検証内容・方法を検討

2022年（令和4年）青葉通仙台駅前エリア  
社会実験「MOVE MOVE」を実施



「良い取組」との意見が全体の7割

30代までの若い世代、市外居住者では8-9割

実験に対する評価をアンケート調査しました。

回答した人の5割以上は仙台駅前に多く来訪している若い世代（10代-30代）。

その8割以上が「良い取組だと思う」と回答しました。

年齢が上がるにつれその割合が下がり、40代以上は6割となっています。

また、市内の人は約6割、市外の人は約8割が評価しています。

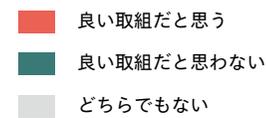
社会実験の交通規制に伴う迂回の影響で

広瀬通と仙台駅周辺で混雑が発生

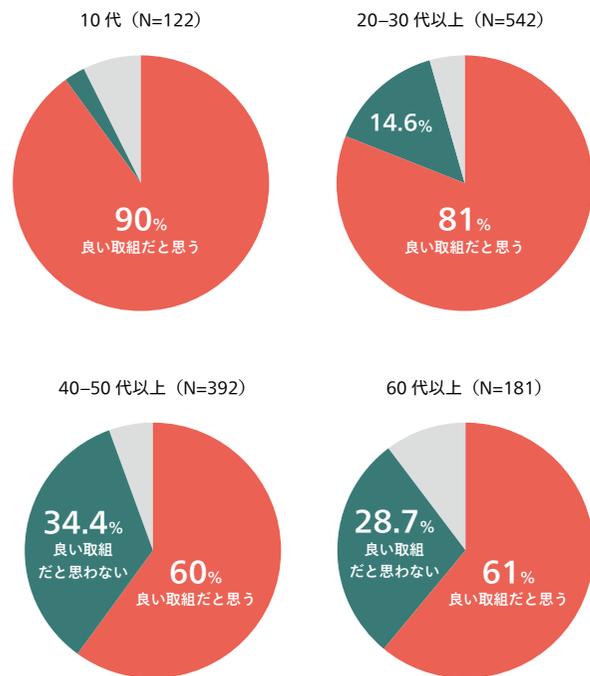
交通規制による影響を調査しました。

仙台駅付近と広瀬通での交通混雑（影響①）や規制区域への誤進入（影響②）、バス停の移設による誤乗車（影響③）、バス停の集約によるバス待ちのスペース不足（影響④）などの影響が発生しました。

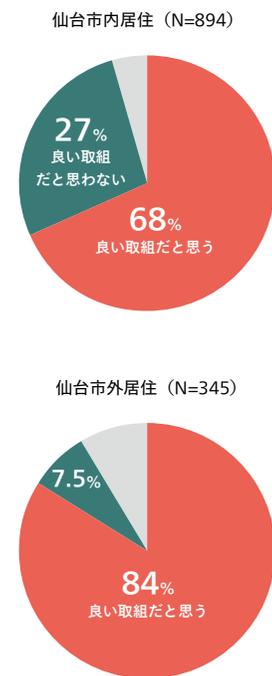
また、自家用車で仙台駅一般車降車場に訪れた人の約6割、市内中心部に訪れた人の約4割が「影響があった」と回答、「バス停の移設場所が分かりにくい」といった声も寄せられました。



年代ごとの社会実験への印象



居住地ごとの社会実験への印象



# 協議会のあゆみ 2023-2025

History of the Council (2023-2025)

未来ビジョン策定のため、社会実験の企画・運営を担った民間メンバーによる「将来ビジョン検討事務局」を設置しました。社会実験の効果検証データの深掘りによって得た知見、市民から寄せられた意見、協議会委員の考えをもとに未来ビジョン案を作成し、協議会で策定しました。

## 社会実験の振り返りイベント「MOVE MOVEとは何だったのか？」

2023

開催：2023年10月15日

場所：CROSS B PLUS

参加者層：10-60代の幅広い世代が参加

登壇者：社会実験の企画・運営に携わった各担当者、このエリアの取組に関心を持ち、様々な分野で活動する方々、現在は東京に居住し、仙台居住経験がある方

社会実験 MOVE MOVEの企画・運営に携わった各担当が、様々な立場の聞き手からの質問や参加者からのコメントを交えながらクロストークを実施。

改めて「MOVE MOVEとは何だったのか？」を振り返りながら知見を深め、このエリアの未来ビジョン策定に向けて、市民の意見を取り入れることを目的としました。

### 参加者の声

定禅寺通と比べて「発信」がしにくい通り。

仙台駅の目の前にあるにもかかわらず、なにも特徴が無い通り。

良くも悪くも「何もない」ので、市役所・市民・民間業者が一体となって考えていければ良いですね。

社会実験のような空間があると「仙台の顔」と言えるのかもしれないけど、現状はなかなか「仙台の顔」とは言えないかな。

仙台が段々リトル東京化してきて悲しいところだったので、今回のイベントは何か街の活力のようなものが感じられて嬉しかった&元気ができました。

効率・デジタルばかりに目が行きがちな社会ですが、今回のMOVE MOVEのような場があることで、「人」のつながりが促されたら良いと思う。

市民が自分ごととしてまちづくりに参画できる仕組みづくりはすごく良いと思った。あとは都市圏に若者が流れてしまうのをどうにか食い止め、まちで活躍する若手が増えていけば良いなと感じた。



将来ビジョン検討事務局では、社会実験 MOVE MOVE 後の2023年から、実験に参加されたひと、青葉通に関心があるひとを中心に、実験結果を共有し意見を言い合える「つながりづくり」に役立てる取組を進めています。取組を通して顔が見える関係を築き、まちの未来を主体的に考え行動するコミュニティを育てることを目的としています。

つながりづくりの仕掛け

コミュニティは、長期的な目線で段階を踏み、醸成していくことが重要です。

	2023年	2024年	2025年
事務局主導	種まき 匿名で参加できる10人未満の会を主催する	芽ぶき 匿名で参加でき、顔見知り同士が交流できる10-20人規模の会を主催する	水やり 匿名でも参加できるが、希望に応じ名前を公表しても良い20-30人規模の会を主催する
市民による企画		芽つぎ 市民から自発的に生まれた取組をリーディング・プロジェクトとして応援し、さらに新しい取組が生まれていくよう促す	

ねらいと大切にしている視点

目的とビジョンの共有

コミュニティが目指す方向性を明確にし、参加者の共感を生む。「なぜこのコミュニティが必要なのか？」を噛み砕いた言葉で伝え、共有する。

コアメンバーの結成

志を共有でき、コミュニティに関する活動ができるひと数名に呼びかける。役割を分担しながら、小規模な活動を開始する。

参加者の巻き込みと関係性の深化

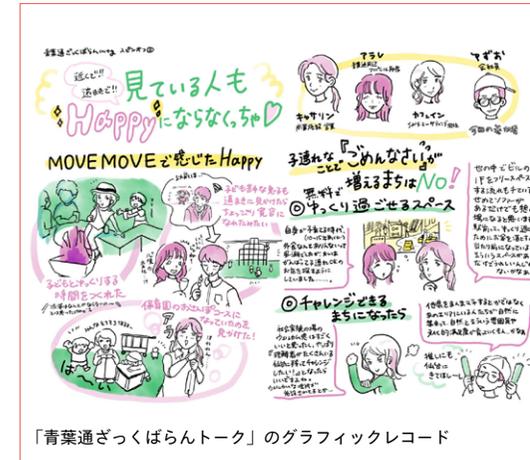
イベントやワークショップを通して、新たな参加者を増やす。多様な価値観を受け入れながら、ゆるやかにつながる場をつくる。

快適に交流できる環境の整備

コミュニティ内で自主的なプロジェクトが生まれる環境を整える。参加者が主体的に動く仕組み（オンラインプラットフォームや情報共有ツールなど）を導入する。

取組事例1) 青葉通ざっくばらんトーク

これまでに8回開催されてきたこの非公開イベントは、社会実験以降のつながりづくりの一環として行われています。参加者は肩書や本名を明かさず、カジュアルな空間で青葉通についてディスカッションできます。オフィスワーカー、学生、地権者など、多様な背景を持つ人々が集まり、このエリアへの関心を高める第一歩として機能しています。実際の参加者からは、「肩書を気にせず、青葉通のことを個人の目線で話せた」「こんな価値観の人もいるんだと気付けた」といった声が寄せられています。今後は、未来ビジョンを踏まえたテーマで、さらに発展的な展開を予定しています。



将来的にこんな声が生まれるよう  
進めていきます

青葉通で新しいチャレンジをしなくなった

興味があるひとを知っているから連れていきたい

これからのにぎわいづくりには対話が必要だと思った

取組事例2) リーディングプロジェクト

Aoba Avenue Asobu Collective (AAAC / 青葉通で遊ぼう) 2025~

主にこのエリア周辺で「まちづくり」ではなく「遊び」を合言葉に集まった市民同士で、まちとの新しい関わり方を体現するプロジェクトです。リアル×インターネットで共同体をつくりながら「まちの姿がどんなに変わっても青葉通へんにいたら、なんか楽しい！」状態の持続を目指します。



社会実験当時の様子や深掘りの結果などをまとめた  
アーカイブ冊子「MOVE MOVE ARCHIVE BOOK」を作成

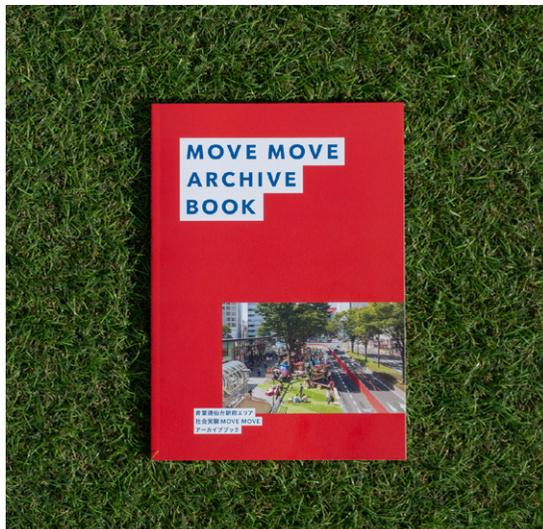
発行日：2024年4月10日

入手先：冊子は仙台市内各所に配布、PDF版は青葉通関連の情報発信サイト「AOBA DORI MOVE」から閲覧することができます。  
<https://aoba-dori-move.com/2024/06/03/post-271/>

社会実験の企画・実施・検証の過程を整理し、誰もがその内容を知ることができるよう、アーカイブブックとしてまとめました。  
将来ビジョン検討事務局のメンバーが集まり、社会実験の効果検証結果やイベントなどで寄せられた意見を踏まえ、社会実験中の様子を振り返りながら意見交換会を実施し、深掘りの結果見えたことを掲載しています。

写真左)  
社会実験についてとりまとめたアーカイブブック

写真右)  
将来ビジョン検討事務局メンバーによる意見交換会の様子



項目ごとのふり返り

コンセプト、ターゲット、ビジュアル・空間デザイン、コンテンツの項目ごとに意見交換会の内容をとりまとめました。

**コンセプト** コンセプト「青葉通仙台駅前エリアのひととなりを見出し、新しい流れを生む」について、これを踏まえた利活用空間とコンテンツの実施により、エリアに通常よりも多様な属性のひとが多く訪れ、視点②「多様な活動があふれる人中心のエリア」の可能性が見出せた  
→ p50の視点①「仙台の顔としてのエリア」に、多様な活動・滞在・交流という「表情」が浮かび上がった

**ターゲット** 想定ターゲット「働くひと・学ぶひと・働きたいひと・学びたいひと」について、具体的には、20-30代の学生や社会人が多く訪れた。  
平日午後は学生、平日夜は仕事帰りの社会人、休日中は、通常このエリアで割合が少なかった幼児や小学生の子どもを連れた子育て世代の社会人が多く訪れた。  
→ 曜日や時間帯で訪れる属性とニーズが異なるため、ターゲット設定とそれに基づく空間づくりが必要

**コンテンツ** コンセプトと想定ターゲットを踏まえた多様なコンテンツを多数実施したことで、これまで見られなかった多様な活動・滞在・交流（具体的には体験や遊び、くつろぐ、会話など）が見られた。  
→ ターゲット設定とそれに基づくコンテンツを実施することで、目的を持って訪れるひとが増え、にぎわい創出やまちなかへの回遊の可能性につながると考えられる

**ビジュアルデザイン** 赤と青のキーカラーは、MOVE MOVEのコンセプトに基づいて採用した  
→ エリアに新しい印象を生むことができた、恒常的な空間に最適な配色は別の視点でも検討が必要

**空間デザイン** 空間の設えを訪れた人が自由に使っていたのが良かった  
例1) 人工芝を敷いた場所 → 赤ちゃんがハイハイする、学生が座って休憩する  
例2) ステージの段差、ジグザグの仕切り → 子ども達が遊具として使う、大人がベンチとして使う  
→ 使い方の自由度を高める、ユニバーサルデザインへの配慮も必要

① MOVE MOVEを訪れた〈子ども・学生・社会人・主婦/主夫〉が、このエリアに対し、それぞれの〈居心地の良さにぎわい〉を求めている

② 「居心地の良さにぎわい」には「静的な居心地」と「動的な居心地」がある

**静的な居心地とは？**

- 受動的、安らぎ、間接交流、合流、くつろげる、休憩
- イベント・アクティビティに参加しないが、同じ空間にいることは楽しんでいる
- 拍手や笑いで参加しているなど、緩やかに繋がっている満足感
- 人の目が届いている安心感がある
  - 例) 警備員がいて管理されている
- 個々の楽しさ（携帯を見ながら居心地良く過ごしているなど）
- 多様な属性の人が同じ空間にいる

**動的な居心地とは？**

- 積極的、直接交流、人を動かす仕掛け、驚き、アクティブな楽しさ、雰囲気がある
- 会話をする、何かを一緒にするなど、人と人との直接的なコミュニケーション量が多い

**ハード面の居心地の良さとは？**

- 目が届く広さである
- 衛生面がクリアされている
  - 例) 石、動物のふんなどが無い
- 空間の設えに安心感がある
  - 例) ベンチ（心理的にちょうど良い距離感で設置）、目隠し（個々のテリトリーに踏み込みすぎない）
- 公共交通機関、商業施設に隣接している

**居心地の悪さとは？**

- 空間に人が密集している時
  - 空間に余裕はあるが、心理的に居心地が悪い時
    - 例) 親子連れが集中している時に、社会人一人など、自分とは異なる属性の人が集中している時
  - 声をかけられたくない時、人と関わりたくない時
  - イベント・アクティビティを実施すると来訪者が増え、人口密度も増え、静的な居心地が損なわれる
- イベント・アクティビティを実施する時間帯、場所などへの配慮が必要

③ 将来ビジョンづくりへ向けて

今回の意見交換会で見えた「居心地の良さにぎわい」をエリア価値に必要な要素として、将来ビジョンの検討に取り入れていきたいと考えています。



多くの親子でにぎわった子ども向けのあそび場（休日）



お昼時の様子（平日）



大学生によるランウェイ企画（休日）



ポッチャを楽しむ親子（休日）



朝7時に開催されたヨガ教室（平日）



南三陸杉のジャングルジムで遊ぶ子どもたち（休日）

開催：2024年5月25日

場所：アーバンネット仙台中央ビル1階 イノベーションスペース

登壇者：梶村直美さん(株式会社乃村工藝社プランナー)、佐藤岳歩さん(株式会社The Youth代表)

参加者層：10-50代まで幅広い世代が参加

社会実験 MOVE MOVEの深掘りを通して見えてきた「居心地の良さ」へのニーズを踏まえ、仙台をはじめ全国の間づくりを行なっている二人の手がける事例や考えを聞きながら、人が集う空間や青葉通における「居心地の良さ」について考えるトークセッションを行いました。参加者からも質問や意見を自由に出してもらい、このエリアの未来ビジョンへ反映する声を拾うと共に、引き続き、このエリア、ひいては仙台のまちづくりへの興味関心を生み出すことを目的としました。

参加者から寄せられた声(右ページ)

参加者が思い描く30年後の青葉通仙台駅前エリアの理想像を3つの言葉で表現してもらいました。



Q. 30年後の青葉通仙台駅前エリアはどのようになっている欲しいでしょうか？  
3つの言葉で表して、理由も教えてください。

**緑・余白・多様性を受け入れる**  
仙台の顔であり、県内外に関わらず、たくさんの人が訪れる場所だから。

**活動・移り変わり・彩**  
人の活動は、常に移りかわるけれども、一方で、彩りがあることが重要だと思う。

**色・音・温度**  
にぎわいのある、オシャレな空間になってほしいですね。

**暖かい・緑・爽やか**  
緑は暖色の色で杜の都と通じる部分があると思う。私が感じている仙台の爽やかな雰囲気は損なって欲しくないため。

**集・周・就**  
ひとが集い、回遊し、就く、のイメージ。

**自然・音楽・香り**  
東北の都市だけでも、駅を降りたら自然が目飛び込み、心地良い音楽が流れ、自然の香りがする。そんな玄関になったら、どんな人でも歓迎された気分になりそう。

**緑・参加・外の世界を知る機会**  
仙台の緑を守っていきたくらい。ないから外に行くではなく、ないなら創る市民性になったらおもしろいと思う。場所に限らず、人との出会いで世界が広がったら仙台に住み続けたいと思うから。

2021年から2023年にかけて開催した延べ7回の協議会では、  
エリアの現状や特性、社会実験の成果・深掘りなどを踏まえた議論を行いました。

そして、2024年から2025年にかけて開催した延べ3回の協議会で、  
未来ビジョンのとりまとめ、策定に向けた協議を行いました。

第1回 協議会  
2021年6月1日

- ・協議会の設立に関すること
- ・協議会の進め方及び検討事項

第1回 ワーキンググループ  
2021年7月9日

- ・ワーキンググループに関すること
- ・他都市事例紹介（国土交通省 東北地方整備局より）

第2回 ワーキンググループ  
2021年8月6日

- ・あり方検討の進め方
- ・エリアの現状確認、整理

第3回 ワーキンググループ  
2021年11月1日

- ・データから考えるエリアの将来の姿
- ・大丸有エリアの紹介（三菱地所株式会社より）
- ・エリア周辺の交通状況の整理

第4回 ワーキンググループ  
2021年12月1日

- ・エリアづくりの視点検討
- ・社会実験に向けた交通処理の検討

第5回 ワーキンググループ  
2021年12月22日

- ・エリアづくりの視点、求められる機能・空間の検討
- ・社会実験に向けた交通処理の検討

第2回 協議会  
2022年1月26日

- ・ワーキンググループの協議経過報告
- ・社会実験の計画（目的、交通規制）

第6回 ワーキンググループ  
2022年5月9日

- ・社会実験の計画（日程、利活用、交通規制）
- ・市民参画イベントの開催報告

第7回 ワーキンググループ  
2022年7月5日

- ・社会実験の計画（利活用、交通規制）

第3回 協議会  
2022年7月15日

- ・ワーキンググループの協議経過報告
- ・社会実験の計画（日程、利活用、交通規制）
- ・市民参画イベントの開催報告

第4回 協議会  
2022年8月25日

- ・社会実験の計画（交通規制、空間デザイン、コンテンツ、広報、効果検証）
- ・市民参画イベントの開催報告

2022年9月23日～10月10日

- ・青葉通仙台駅前エリア社会実験「MOVE MOVE」

第8回 ワーキンググループ  
2022年12月26日

- ・社会実験の効果検証結果の速報（空間利活用の調査、交通量調査）

第5回 協議会  
2023年3月28日

- ・社会実験の効果検証結果（空間利活用の調査、交通量調査）

第6回 協議会  
2023年8月4日

- ・社会実験の効果検証結果の振り返り
- ・将来ビジョン策定までの進め方
- ・「将来ビジョン検討事務局」を協議会内部に設置

第7回 協議会  
2023年12月22日

- ・社会実験の効果検証結果の深掘り状況
- ・コミュニティ醸成の取組状況報告（人材の発掘、コミュニティ育成）
- ・情報発信

第8回 協議会  
2024年9月3日

- ・将来ビジョン骨子案
- ・コミュニティ醸成の取組状況報告（人材の発掘、コミュニティ育成）
- ・情報発信

第9回 協議会  
2024年12月23日

- ・未来ビジョン中間案（将来ビジョンから未来ビジョンに名称変更）
- ・コミュニティ醸成の取組状況報告（人材の発掘、コミュニティ育成）

第10回 協議会  
2025年3月25日

- ・未来ビジョン最終案
- ・コミュニティ醸成の取組状況報告（人材の発掘、コミュニティ育成）

社会実験の企画・運営を担った民間メンバーによる「将来ビジョン検討事務局」を協議会内部に設置し、協議会委員の意見を踏まえて未来ビジョンのとりまとめを行いました。

令和6年(2024年)8月 骨子案を提示

将来ビジョン検討事務局から提案した内容

ビジョン：  
心が動く「まちあわせ場所」をつくり、これぞ「仙台の顔」と世界に誇れる表情を育てる

ビジョン実現に向けて共有したい価値観：  
グラデーション・ポジティブ

委員意見

- まちあわせ場所について
  - ・このエリアに留まるといった限定的な用途イメージ
  - ・複数名での出会いの場を連想する。一人で歩いているひと、活動しているひといるため、他人事になってしまわないか
  - ・回遊を含めた動的な広がりを感じられない
- 全体について
  - ・このエリアの最大の役割は経済の中心
  - ・グラデーションとすることでつながりの中で色々なものを認めていく、色々な事が活かされる場にしていきましょうと捉えられ良い表現
  - ・価値観だけでは今後の方針が見えにくい
  - ・人、建物、空間、雰囲気などから生まれる形に表せられない感覚を表情として自信を持って言えるようになるべき
  - ・ビジョンの表現は、埋没しないように尖ったテイストで進めていきましょう



令和6年(2024年)12月 中間案を提示

将来ビジョン検討事務局から提案した内容

ビジョン：  
多元的価値をいかしあい あらゆるゆたかさと仙台への愛着の起点となるエリアをつくる

ビジョン実現に向けて共有したい心構え：  
グラデーション・ポジティブ

ビジョン実現に向けた考え方：  
センター・オブ・ヒューマニティ

委員意見

- ビジョンについて
  - ・仙台の玄関口としての重要性や、様々な都市機能が共存する特性を的確に捉えており、非常に分かりやすく理解できた
- 価値観、方向性について
  - ・どちらも価値観になり、方向性になりうと思った
  - ・キャッチーな言葉は必要だが、多すぎても問題だと思う
  - ・カタカナを多用すれば現代感は醸し出せるが、高齢者や中高生には理解されにくくなる
  - ・人の感情や人間性を中心に据えたエリアづくりという意図が明確に伝わった
- ビジョン策定後について
  - ・ビジョン策定で終わりではなく、行政と民間が一体となり本気でこのエリアを実際に発展させていかなければならないと考える



令和7年(2025年)3月 最終案の提示・策定

# エリアの果たすべき役割に関する補足

## Supplementary Explanation on the Role this Area should Fulfill

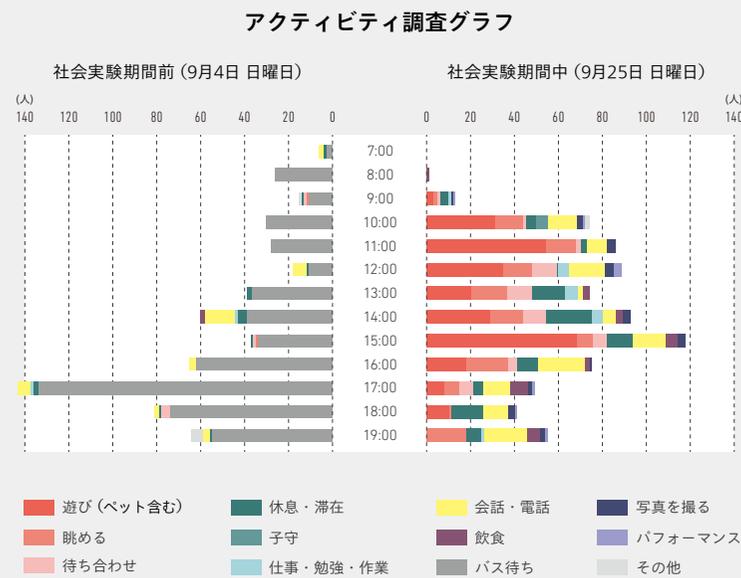
社会実験のデータから、エリアの果たすべき役割を考える上で参考となる補足資料を掲載します。

### 1 | ひと中心の視点

「活動、交流、滞在」による「居心地の良いにぎわい」により、「仙台の顔」として表情を生み出すことができ、多くの人を惹きつけることができました。

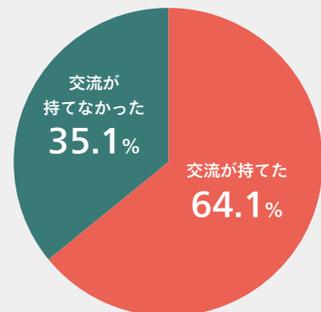
#### 1. 活動数、種類の変化

- ・空間の創出、コンテンツの実施により、様々な活動を生み出すことができました。
- ・休日のコンテンツ実施状況によっては、座る場所が不足する場合があります。



#### 2. 交流の創出

交流体験を重視したコンテンツの実施により、来訪者の約6割が「交流を持てた」と回答。(N = 423)



#### 3. 滞在時間

来訪者の約半数が30分以上滞在。(N=1,145)

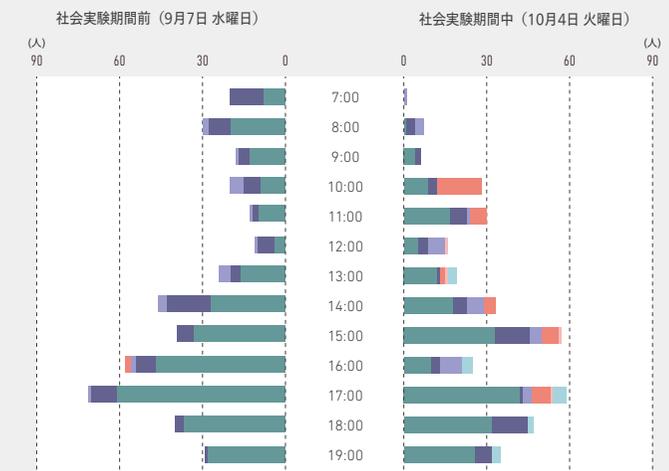


#### 4. 来訪者属性の変化

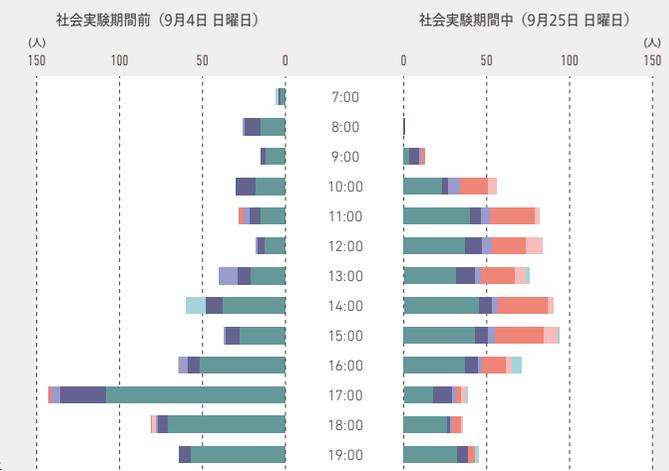
平休日に関わらず、幼児や小学生などが増加し、来訪者属性に変化をもたらしました。

#### 社会実験期間前と期間中の利用者属性の変化

##### 社会実験期間前と期間中の利用者属性の変化 (平日)



##### 社会実験期間前と期間中の利用者属性の変化 (休日)



5. 来訪者の第一印象

「楽しい」、「嬉しい」、「驚き」など、第一印象として好印象を与えることができた一方で、渋滞などにより「困った」印象も与えました。

訪問時の第一印象（上位3つ）

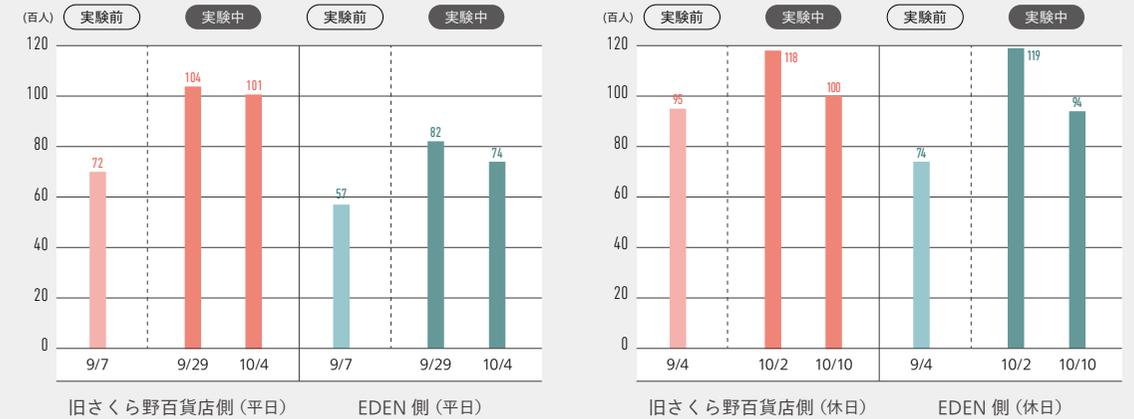


※ 本グラフは各層の上位3つの回答です。  
 ※ 「大学生など」には大学院生、専門学生が含まれます。  
 ※ 「高校生など」には高専生が含まれます。

■ 楽しい ■ おどろき ■ 困った  
 ■ 嬉しい ■ 嬉しい・広い  
 ■ きれい ■ 嬉しい・きれい

「活動、交流、滞在」による「居心地の良いにぎわい」により、沿道の一部飲食店舗では、テイクアウト利用、休日の家族連れ、若い世代の来客が増加したことなどによる売上げ増加が見られました。

平日と休日の歩行者数の変化



1. 歩行者数の変化

旧さくら野百貨店側、EDEN側とも、実験前と比較して歩行者交通量が増加。

2. 青葉通に面していない店舗への効果

(沿道施設内 飲食店A)  
 「子連れのお客さんが増加し、売上も増加。」

(沿道施設内 飲食店B)  
 「人の流れが変わった。特にお昼は家族連れのお客さんが今までのほぼ倍。うれしい。」

3. 青葉通に面する店舗への効果

(飲食店)  
 ・平日・休日を問わず、若い世代と家族連れが増加。  
 ・実験前と比較し、客数は30%、売上は屋30%、夜20%向上。

(飲食店以外の物販)  
 ・売上は増えていないが、来客数は増加。

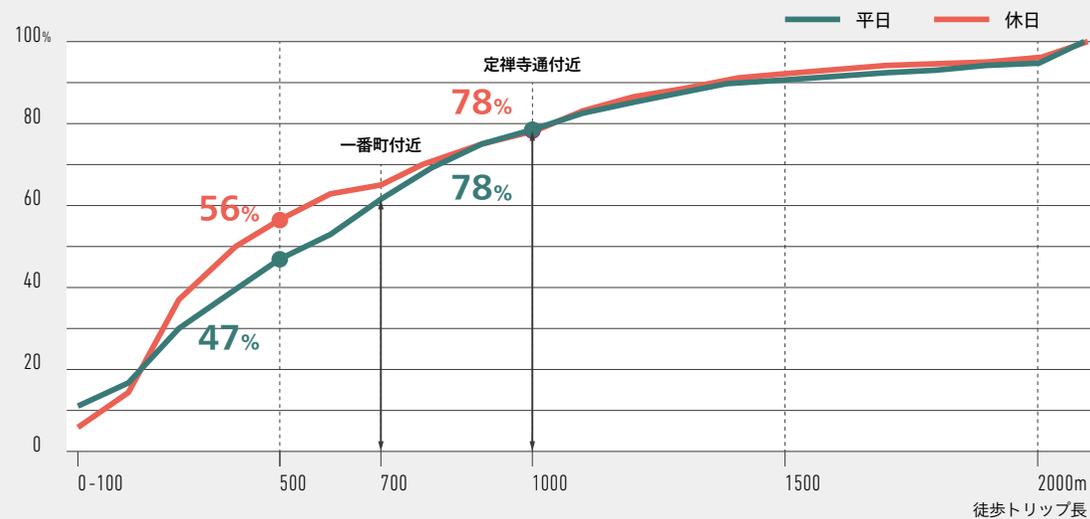
4. 売上、来客数増加のためのポイント

沿道店舗の飲食店 店長のコメントより  
 「売上、来客数向上のためには、店舗側として空間に訪れる方が必要としているサービスの提供、空間で行われている取組との共創が必要。」

### 3 回遊の視点

このエリアは仙台駅東西自由通路やペDESTリアンデッキより一番町などのまちなかとの距離が近いことから、「活動、交流、滞在」を生み出す空間により多くの人を惹きつけることで、より一層回遊の起点となる役割を果たすことが期待できます。

仙台駅前を起点に歩く人の移動距離の50%は500m程度（仙台駅から東二番丁通までの距離に相当）



このエリアに来てもらい、滞在（休憩）できることで、移動距離の観点から一番町などのまちなかへの回遊はしやすくなります。社会実験中には「休めることで他のエリアに行きやすくなった」という意見も寄せられました。

青エリア | 仙台駅東西自由通路を中心とした半径500m

赤エリア | 青葉通仙台駅前エリアの西端を中心とした半径500m



青葉通仙台駅前エリア未来ビジョン  
仙台の顔、多彩な表情のあるエリアへ

発行日 2025年5月15日

発行 青葉通駅前エリアのあり方検討協議会

制作 青葉通駅前エリアのあり方検討協議会 将来ビジョン検討事務局

ディレクション・デザイン 小松 大知 (TORCH LLC.)

編集・イラストレーション 奥口 文結 (FOLK GLOCALWORKS)

写真 佐藤 早苗 (sanas photo works / p2, p36-42, p60, 64p右下)

佐藤 正実 (風の時編集部 / p8-p13)

難波 明彦 (ティーラムスタジオ / p57, p67左上)

印刷 今野印刷株式会社

未来ビジョン策定 2025年3月25日

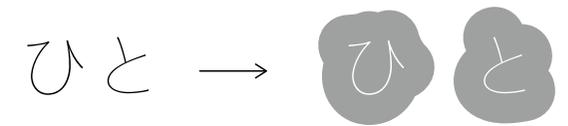
※冊子中の施設名称は、社会実験開催時点（2022年9月）の名称で記載しています。

※グラフ出典

『青葉通駅前エリアのあり方検討協議会資料』

『MOVE MOVE ARCHIVE BOOK』

『第5回仙台都市圏パーソントリップ調査 報告書』



表紙のデザインについて

このエリアで大切にしている「ヒューマニティ」を、平仮名の「ひと」の文字を膨らませた形で見立て、キービジュアルとしました。表紙では、3色の「ひと」の形をグラデーションができるように重ねながら、円状に連ね、このエリアに生まれた様々なヒューマニティがまちに広がっていく様子を表現。

また、冊子のサブタイトル「仙台の顔、多彩な表情のあるエリアへ」に呼応するように、色とりどりの花のリースに見立てることで「明るく華やかでポジティブなまちづくりにしていこう」という願いも込めています。

裏表紙では、「個としてのヒューマニティ」を一輪の花に見立てたビジュアルで表現。このエリアに咲かせたいヒューマニティを、自由に想像してみてください。



AOBA DORI MOVE  
仙台・青葉通のひと・こと・ものを  
未来目線で紹介する Web サイト



青葉通駅前エリアの公共空間のあり方検討  
(仙台市ホームページ)

